平成23年度に実施した事務事業の評価

番号	13024	事務事業名	文化財施設等維持管理事業	所管課	郷土文化学習交流課

総合計画体系（後期）	部	1	市民活動の推進
	章	3	文化の創造
	節(施策)	1	歴史文化の継承

【将来像】

後期基本計画の節（施策）の目標です。

歴史・文化遺産を未来へと引き継ぐまち

【事業の目的】

対象（誰・何）が、どのような状態になることを目指していますか？

市内に残る史跡・伝統芸能等の宗像遺産の保存・管理等を適正に行い、市民共通の財産（文化遺産）として活用できるようにする。

指標名（成果指標）	説明・算定式	単位	実績の推移			23年度		目標値			
			20年度	21年度	22年度	目標	実績	24年度	25年度	26年度	27年度
収蔵品台帳作成	進捗率にて算出	%				20	20	40	60	80	100

【事業の内容】

対象（誰・何）に対して、どんな手段を実施していますか（しますか）？

文化財収蔵施設の維持・管理を適正に行い、収蔵資料を公開・活用できるように資料の整理を行う。また、指定文化財等の保存と活用を図るため草刈、案内看板等の設置を行う。

事業費（単位：千円）		22年度決算	23年度決算	24年度予算
事業費合計		5,093	5,459	7,952
財源内訳	国・県支出金			
	地方債			
	その他		998	
	一般財源	5,093	4,461	7,952
財源名	国・県支出金	繰越金交付金		
	地方債			
	その他		行政財産使用料	

平成23年度に実施した事務事業の評価

【平成23年度の実施結果】

23年度 実施計画	５ヵ年計画で施設収蔵の一括収蔵品を収納箱に配置整理、選別できるようにまとめる。また、収蔵品台帳を作成し各文化財の活用可能な体制をつくる。（１年目）
実施結果	実績となる数字も入れて、分かりやすく ・旧宗像市収集民俗文化財関係資料、約２００点/１０００点の整理・実測・写真撮影等を行い収蔵品目録及び台帳の作成を行う。・海の道むなかた館展示資料を選定（約２００点）し、併せて展示関係資料の調査・整理及び展示目録の作成を行う。・田野瀬戸古墳・上八（鐘崎）貝塚等の指定文化財の草刈を行う。

【担当課の一次評価】

必要性の評価		その評価をした理由
市民のニーズはどうなっていますか？ 1　向上している　2　変わらない　3　低下している 9　法令等により市に実施義務がある	評価 1	市教育委員会収蔵資料についての概要・見学方法等の問合せが多いことから、市民のニーズは高いと考えられる。
民間、国、県、市の他の事業と目的や成果が重複していませんか？ 1　重複していない　2　一部重複している　3　重複している 9　法令等により市に実施義務がある	評価 1	宗像遺産は市民共通の財産であり、これを保護・活用することは、本市の文化行政において欠くことができないものであり、市が必要な施策を講じなければならない。
有効性の評価		**その評価をした理由**
目的に対しての成果はどうなっていますか？ （成果指標の「23年度」欄の目標を達成できていない場合は「3」を記入） 1　向上している　2　変わらない　3　落ち込んでいる 9　法令等により市に実施義務があり、有効性を判断できない	評価 2	収蔵資料（未公開資料）の整理し、台帳を計画的に作成することは、後世への記録保存の意味もあり、研究成果を蓄積することができ、併せて資料を有効に活用することができる。
効率性の評価		**その評価をした理由**
コスト効率・業務効率はどうなっていますか？ 1　向上している　2　変わらない　3　低下している	評価 2	最低限の経費で、計画的に事業を行っている。

25年度の事務事業に向けての総合評価と改善策

内容・予算		総合評価	具体的な改善策（いつまでに何をしますか？）
内容	維持	職員が中心となり臨時職員を使用して作業を進めているが、収蔵文化材資料が多いことから作業を能率的に進めることができていない。また、年々増加する文化財資料の収蔵スペースを確保するために資料の整理が必要である。また、指定文化財をはじめ宗像遺産を後世に伝える必要がある。	・文化財収蔵品台帳の整備及び活用について市民協働（地域学芸員等）で進めていく。・収蔵品台帳のデータ化を進め収蔵品検出を容易にすることによる資料の活用を図る。・案内看板等を設置することにより宗像遺産を地域資源として紹介・活用していく。
予算	維持		

【平成25年度に向けての二次評価（最終評価）】

評価		理由及び検討事項
内容	縮小	田野瀬戸古墳の工事は終了となるが、大島資料館収蔵資料等の搬送に伴い、内容、予算ともに「維持」とする。
予算	維持	